

科目名	成人看護学特別研究			分野・必選別・単位数	専門科目 (成人看護学)	選択必修	10単位
担当教員	◎教授 南川雅子						
課程	博士前期	配当年次	2年	配当学期	通年	授業方法	演習
授業の概要	これまでの特論や演習で得た知見を基に、成人看護学領域における課題を追究し、研究テーマを見い出す。実際に研究のプロセスを踏み、成人看護学の実践に寄与するための基礎的研究能力を習得する。						
授業の到達目標	①研究テーマに沿った研究計画書を立案できる。 ②対象者への倫理的配慮に基づいてデータを収集できる。 ③収集したデータを適切に分析できる。 ④論理的で一貫性のある考察ができる。						
授業計画	回数	担当者	行動目標				
	<p>【行動目標】 研究テーマに沿って研究計画を立案し、データ収集して論文を作成する過程を通して基礎的研究能力を習得する。(詳細については相談して決定する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書の作成 ・倫理審査書類の作成 ・データ収集 ・データの整理と分析 ・結果の記述 ・結果に基づいた論理的考察 ・論文作成 <p>【研究テーマ】 がんリハビリテーション、およびがん患者・家族への看護介入についての混合研究、量的研究</p>						
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	研究に関する文献について十分に読解すること。					
	【事後学修】	研究活動中の疑問点をまとめ、文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に150時間以上の予復習が必要。					
教科書	必要に応じて適宜提示する。						
参考書	必要に応じて適宜提示する。						
成績評価の方法および基準	研究計画書50%、口頭試問50%により評価する。						
その他履修上の注意事項	履修前提条件:1年次に倫理教育「eLCoRE」を受講し、修了していること。 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP4が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						

科目名	成人看護学特別研究			分野・必選別・単位数	専門科目 (成人看護学)	選択必修	10単位
担当教員	◎教授 林さとみ 准教授 古屋洋子						
課程	博士前期	配当年次	2年	配当学期	通年	授業方法	演習
授業の概要	成人各期にある人々とその家族に関連する健康問題に焦点を当てた研究課題を、計画書に基づいて倫理的、科学的に遂行し、得られた研究結果に基づいて考察し、看護の発展に活用する過程を修得する。						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書に基づき倫理審査申請書を作成できる。 2. 研究計画書に基づいてデータ収集を遂行できる。 3. 研究計画書に基づいてデータ分析を遂行できる。 4. 分析結果を考察し、既存の文献を活用して今後の看護実践に適用できる。 5. 修士論文を執筆し完成させる。 						
授業計画	回数	担当者	行動目標				
	<p>【行動計画の詳細は相談して決定する】 研究課題に沿って研究計画を立案し、データ収集して論文を作成する過程を通して研究的知見を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画立案 ・倫理審査申請 ・データ収集 ・データ整理と分析 ・論文作成 <p>【研究テーマ】 (林さとみ) 循環器疾患リスクのある個人・集団、循環器疾患患者・家族の、疾患発症・悪化リスクに対する認識と行動変容に係る要員の探求、概念化疾患・身体損傷がもたらす身体的、心理的、社会的、政治的脆弱性とその看護</p> <p>(古屋洋子) 周術期がん患者の栄養管理、療養生活支援</p>						
	【事前学修】	研究に関する文献について十分に読解すること。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に150時間以上の予復習が必要。					
教科書	必要に応じて適宜提示する。						
参考書	必要に応じて適宜提示する。						
成績評価の方法および基準	授業内課題30%、口頭試問70%により評価する。						
その他履修上の注意事項	履修前提条件:1年次に倫理教育「eLCoRE」を受講し、修了していること。 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP4が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						